

「ジャポニスム2018」続報 7

本号では「京都の宝—琳派 300 年の創造」展のオープニング周りの事業について報告致します。

1

目次

- | | |
|-------------------------------|------|
| 1. 「京都の宝—琳派 300 年の創造」展オープン | 2~3 |
| 2. 「京都の宝—琳派 300 年の創造」展をめぐる講演会 | 4~5 |
| 3. 要人来訪 | 6~10 |

① 「京都の宝—琳派 300 年の創造」展オープン

「ジャポニスム 2018」秋の展覧会事業の中でも「若冲」展や「縄文」展と並んで重要な事業である「京都の宝—琳派 300 年の創造」展（以下「琳派」展）がパリ市立チェルヌスキ美術館で 10 月 26 日（金）から始まりました。同展は 2019 年 1 月 27 日（日）まで開催されます。

一般公開に先駆けて、10 月 25 日（木）午前中にはプレス向けの内覧会が、同日午後 18 時から招待客向け内覧会が開催されました。

午前中のプレス内覧会には延べ約 150 名のジャーナリストが来場しましたし、夕方の招待客向け内覧会には約 1,000 人が来場し、美術館の外には長蛇の列ができました。内覧会でこれほど多くの人々が来場するのはチェルヌスキ美術館としても非常に稀なことだそうです。京都からは臨済宗建仁寺教学部の坂井田泰仙興雲庵住職と建仁寺派法務部長の真神啓仁・塔頭正伝永源院副住職のほか、細見美術館の細見良行館長、京都国立近代美術館の松原龍一副館長らが臨席されました。



琳派展プレス内覧会の様子

本展での目玉はなんといっても国宝の俵屋宗達「風神雷神図」屏風です。元々は京都の妙光寺にあったものが建仁寺の所蔵となり、現在に至っていますが、作品保存の観点から国内でも貸し出しは稀であり、国外に貸し出されるのはさらに極めて稀だということです。今回はフランス、および欧州で初めての展示となります。

2016 年にパリのイダルゴ市長が公式に京都を訪問された際に、この「風神雷神図」屏風をご覧になって感嘆し、是非パリで見せたいと熱望したという情報が安藤国際交流基金理事長にも伝えられ、同理事長の実現への熱意もあって、今回の展示につながったといえます。



10月25日の内覧会には美術館の外に長蛇の列ができました

会場は、①光悦と宗達（琳派の誕生）、②光琳と乾山（新たな飛躍）、③始興、芦舟、芳中（琳派様式の刷新）、④雪佳（20世紀への琳派の伝承）の4つの区画で構成されています。

また、作品保存のために前期（10/26～11/25）、中期前半（11/27～12/8）、中期後半（12/15～12/30）、後期（01/01～01/27）の4期に分けて、作品の展示替えがあります。細かくなりますが、筆者自身のために、各期の展示替え予定を以下整理しておきます。

①区画では、前期は俵屋宗達の国宝「風神雷神図」屏風、中期前半は伝宗達筆・烏丸光広賛の重要文化財「鶯の細道図」屏風の6曲2双のうち左双6曲が展示されます。中期後半は伝宗達筆・烏丸光広賛「鶯の細道図」屏風の右双6曲、後期は宗達の重要文化財「舞楽図」屏風が展示されます。

②区画では、前期と中期前半は尾形乾山の茶碗や皿と伝尾形光琳の「富士松島図」屏風が、中期後半と後期は尾形光琳筆「白楽天図」屏風と尾形光琳筆・鷹司兼熙ほか賛「十二ヶ月歌意図」屏風が展示されます。

③区画では、前期と中期前半は深江芦舟の「草花図屏風」（重文）、渡辺始興の「簾に秋月図」と「白象図」屏風、中村芳中の「扇面貼交」屏風が、中期前半と後期は芳中の「白梅小禽図」屏風と「月に菖鹿図」そして始興の「吉野山図」屏風が展示されます。

④区画では、前期と中期前半は神坂雪佳の「四季草花図」屏風6曲2双と「伊勢物語図」扇面、「四季草花図」3軸、「山姥之図」「紅葉白菊図」が、中期後半と後期は雪佳の「杜若図屏風」と「薄に桔梗図」団扇、「紅葉狩図」、「白鳳図」、「菊慈童図」、「暁の砧図」、「武蔵野富士」、「金魚玉図」が展示されます。

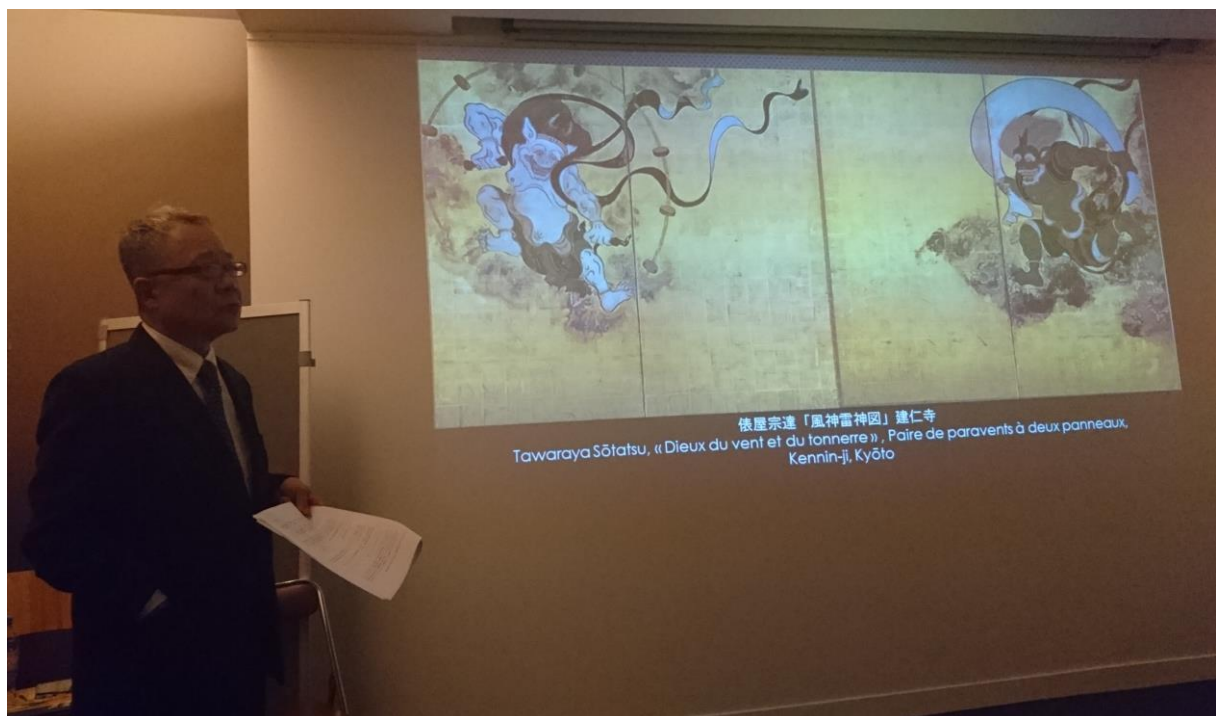
この結果、展示替えしない作品を含めて会期中延べ67作品が展覧されることとなります。

② 「京都の宝—琳派 300 年の創造」展をめぐる講演会

展覧会が始まった 10 月 26 日（金）の午後 4 時からチェルヌスキ美術館の 40 席ほどのこじんまりした講演会会場で奥平俊六・大阪大学名誉教授による「風神雷神図」屏風に関する講演会が開かれました。

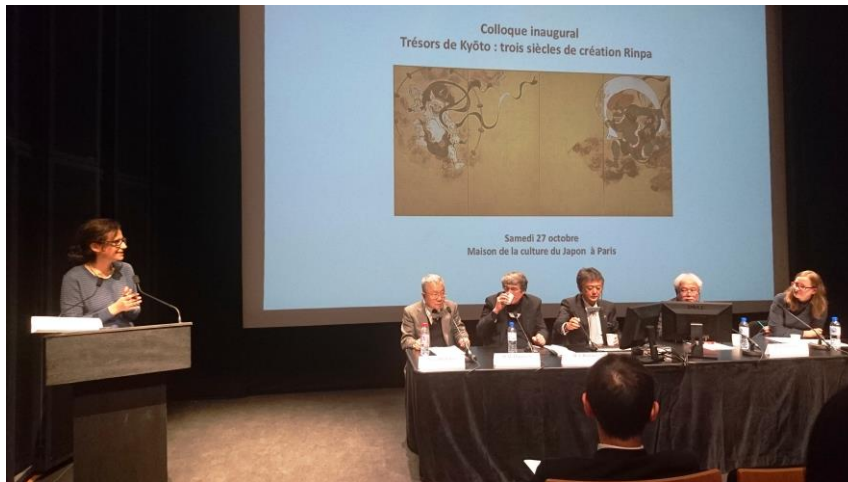
奥平名誉教授の話によれば、宗達の名前が出るのは文禄 3 年（1594 年）に淀殿が父である浅井長政の栄誉を称えるために建立した養源院の襖の杉戸に描かれた「唐獅子」や「水犀図」、「狻猊（さんげい）図」からでした。これら襖絵は今回出品されていませんが、その制作年代については諸説ある中で、最近では法橋宗達と名乗る前の寛永 3（1626 年）～7 年頃の作とする説が有力視されるようになってきているとのことです。それは後水尾天皇（浅井長政の 3 女崇源院の娘・東福門院の夫）の側近であった烏丸光広が宗達に注文したと伝えられていることによるとのことです。当時二条城の改築で狩野派や土佐派などの主流派が多忙を極めていたため、徳川家の寺院ではない、豊臣方の家臣浅井家の私的寺院として建立された養源院の改築の際には主流派絵師の手が回らず宗達に注文されたということです。その襖絵を境に宗達は有名を馳せ、法橋という称号も与えられて、以降「風神雷神図」屏風のような傑作を産み出すようになりました。

なお、落款やサインがない「風神雷神図」が宗達作と判断された理由の一つは、上述の襖絵に見られるような構図と空間表現、即ち、何とも言えぬ浮遊感ととらわれの無い線描によるとのことでした。



講演中の奥平・大阪大学名誉教授

さらに、翌 27 日（土）の午後 3 時からパリ日本文化会館の地上階小ホールで 6 人の学者たちによる「琳派」展関連の 2 時間半に及ぶシンポジウムが開かれました。筆者と植村哲京都市副市長による冒頭挨拶に続き、以下の登壇者たちから発表がありました。エステル・ポエール・INALCO 日本研究部長兼日本古典文明教授、奥村俊六・大阪大学名誉教授、ハンス・トムセン・チューリッヒ大学教授、細見良行・細見美術館長、松原龍一・京都国立近代美術館副館長、ウィブケ・シュラップ・ハンブルグ美術工芸博物館東アジア部長ら 6 人（以下の写真の向かって左からの順番通り）です。



シンポジウム冒頭勢揃いした登壇者 6 人

あいにく同じ時間帯に岐阜県の「地歌舞伎」公演が地下 3 階大ホールで開催されたため、筆者は冒頭挨拶後まもなく地下 3 階に移動せざるを得なく、シンポジウムを拝聴することはできませんでした。シンポジウムは非常に盛況で、会場となった小ホールはほぼ満席となりました。



ほぼ満席となったパリ日本文化会館小ホール

③ 要人来訪

ハイライトニュース No.12 で一部言及しましたが、10月下旬に実施した「地方の魅力ー祭りと文化」事業の期間中、以下の地方自治体の首長を含めた要人がパリ日本文化会館を訪れました。

岩手県・達増拓也 知事：伝統芸能（鬼剣舞、さんさ踊り、鹿踊等）の舞台公演のため、

岐阜県・古田肇 知事、

岐阜県・尾藤義昭 岐阜県議会議長、

中津川市・青山節児 市長、

瑞浪市・勝 康弘 副市長、

下呂市・村山鏡子 副市長：以上は岐阜県の方々は地歌舞伎公演のため

木曽町 原 久仁男 町長：木曽踊り公演のため

奈良県 荒井 正吾 知事：春日若宮おん祭公演のため

南あわじ市 守本 憲弘 市長：淡路人形浄瑠璃公演のため（フランス語が堪能でした）

うち岩手県知事一行、岐阜県知事一行、奈良県知事一行は「縄文」展もご鑑賞になりました。

上記の要人来訪とは別に次の方々の来訪も受けました。

(1) 京都市の植村哲（さとし）副市長がパリ日本文化会館を訪問

10月27日（土）にパリ日本文化会館で開催された「京都の宝ー琳派 300年の創造」展関連のシンポジウムに参加されるため、京都市の植村哲副市長が来館されました。同シンポジウムの冒頭、植村副市長は流暢なフランス語で挨拶をされ、2時間半に及ぶ講演会を最後まで熱心に聴き入っていました。

(2) 遠藤利明東京オリンピック・パラリンピック組織委員会会長代行が来館

11月2日（金）午後に遠藤利明・東京オリンピック・パラリンピック組織委員会会長代行がパリ日本文化会館の「縄文」展と「からくり人形」デモンストレーション、「ふろしき」展（ともにパリ東京タンドゥム事業の一環）を視察され、翌3日（土）午前中にチェルヌスキ美術館の「琳派」展を視察されました。

(3) 東京都の小池百合子知事がパリ日本文化会館とチェルヌスキ美術館を訪問

東京都の小池百合子知事は11月3日（土）の12時55分頃にパリ日本文化会館に到着されました。まず「ふろしき」プロジェクトのスペシャル・サポーターを務めるキティちゃんから花束を受け取ったあと、パリ日本文化会館地上階で行われている「ふろしき」展をご覧になりました。その後、フランス式2階で開催中の「縄文」展を5~6分程度駆け足で視察され、地上階「ジャポニスム 2018 情報センター」で待ち受けていたプレス陣の囲み取材を受けられました。それから開催中の「からくり人形」の「呈茶」デモンストレーションをこれも数分にこやかにご覧になり、キティちゃんに見送られながら会館をあとにされました。

エレベーターの中で小池都知事から「土曜日なのに沢山お客さんが入っていますね。」と声をかけられましたので、筆者は「東京都のご協力もあり、沢山の事業が実施できて有難いです。」と申し上げました。



キティちゃんの歓迎を受ける小池都知事



東京都「ふるしき」展（資生堂デザイナーがデザインしたふるしきコーナー）



「縄文」展を視察される小池都知事



キティちゃんに見送られながらパリ日本文化会館を後にする小池都知事

その後、公務を終えた小池都知事は 11 月 3 日の午後 4 時 10 分頃チェルヌスキ美術館に立ち寄られ、「京都の宝—琳派 300 年の創造」展を待ち受けていたパリ市のクリストフ・ジラール副市長とともに、同館のマニュエラ・モスカティエッロ学芸員の説明を受けながら、視察され、4 時 30 分過ぎに、帰国のためシャルル・ド・ゴール空港へ向かわれました。



パリ市のジラール副市長（右手前）とともに「琳派」展を視察される小池都知事

（４）阿部俊子・外務副大臣と関芳弘・経済産業副大臣がパリ日本文化会館を訪問

「ジャポニスム 2018」事業とは直接関係ありませんが、10 月 9 日（火）、パリ日本文化会館で 2025 年万国博覧会を大阪に誘致するためのフォーラムとレセプションがそれぞれ地上階小ホールと日本式 6 階レセプションホールで開催されました。各国の国際博覧会事務局（BIE）メンバーを対象として 11 月下旬の最終投票に向けてのアピールが目的です。地上階ホールではコーヒーのサービスが、レセプションホールでは日本食と日本酒を中心とした飲食料が供されました。パリ日本文化会館は在仏日本大使館と経済産業省からの要望もあり、会場を提供させて頂きました。

その際、阿部俊子・外務副大臣、関芳弘・経済産業副大臣、関西経済連合会会長で 2025 年日本万国博覧会誘致委員会会長代行の松本正義住友電気工業（株）取締役会長、大阪市吉村洋文市長、大阪商工会議所尾崎裕会頭といった大勢の要人たちが会館を訪れました。

また、地上階ホールではミス日本「海の日」の山田麗美さんやピカチュウの着ぐるみが招待客たちを歓迎し、華やかに飾り付けられたレセプションホールでは主賓たちの挨拶や懇親、交流のあと、桂三輝（サンシャイン）さんが英語落語で皆を爆笑させました。



阿部外務副大臣とミス日本「海の日」山田麗美さん



ピカチュウとナタリー・サンドウィディ在仏ブルキナファソ大使館経済公使
およびミス日本「海の日」山田麗美さん

以上